

神奈川県立麻生支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立麻生支援学校における学校運営協議会		
開催日時	令和7年10月28日(火)		
開催場所	神奈川県立麻生支援学校会議室		
(役職名) 出席者	(会長) 新井委員 (副会長)岡本委員 (委員) 久保田委員、谷委員、大崎委員、鈴木委員 <学校職員> (副校長) 山岸(教頭) 石上、田部(事務長) 江藤 (総括教諭) 栗澤、風間、鈴木、土肥、渡邊、有年、小川、堀井		
欠席者	品川委員、青柳委員、佐口委員		
次回開催予定日	令和8年2月17日(火) 予定		
問合せ先	所属名：麻生支援学校、担当者名：石上 卓矢 電話番号：044-980-4855 ファックス番号：044-986-2517		
下欄に掲載するもの	・ 議事録	議事概要とした理由	
会議経過	1 開会 2 挨拶(麻生支援学校 鈴木校長) (会長 新井委員) 3 委員自己紹介 前回欠席者 有賀委員 4 <学校評価部会> (1) 山岸副校長より、中間報告について資料に沿って説明。 視点1：教育課程・学習指導では、子どものことを共通理解するためのアセスメント、先生方の授業をサポートする取り組み、一人1台端末を活用して家庭学習につなげる取り組み等を行っており、これらを職員間で共有して日々の授業をより充実させることを続けていく。 視点2：児童生徒指導支援では、美術の作品を通じて生徒からの感想等言葉を引き出し、お互いを認め合うことにつなげていくこと、また、SNS研修を保護者対象に実施し、生徒へはネットリテラシーの学習として教材を購入して実施する予定。 視点3：イベントに向けて係活動を行い、児童・生徒が主体的に活動できる場面を設定した。将来の進路のための学習会では、保護者のニーズに応じた学習会、見学会を設定した。 視点4：地域社会における学習活動として、近隣の学校・施設等に協力いただき、清掃活動を行っている。子どもたちが地域の貢献につながると実感できるとよい。また、20周年記念事業に関連しても、各学部の授業に地域の方にゲストティーチャーとして入っていただいた。 視点5：今年度は職員間の話し合い、保護者と職員との話し合いを設定してみんなで「丁寧なかかわりのスタンダード」を考えることに取り組んでいる。災害時や非常時の協力や準備等は、実際の		

場面に即した内容になるように工夫したり、保護者にも引き渡し訓練等で協力いただいたりした。

(2) (1) について御意見・御質問 (○委員、●学校関係者)

○アセスメントは何か決まっているものがあるのか。

●知的障害教育部門の小学部はNCプログラム、中・高等部は太田ステージ、肢体不自由教育部門は特に決まっていないが、できる限り同じアセスメントを使い、指標となるようにしていきたい。

○東京都は太田ステージを指標にしている。音楽で楽器を決める時に太田ステージを使い、使う楽器を決め、指導の結果を照らし合わせてみると、アセスメントの結果がマッチした。

○訪問診療、訪問看護との情報交換、情報収集はしているのか。

●保護者との引き継ぎ等で情報共有をしている。

●医療については主治医に意見を伺っている情報提供書となっている。

○個別の支援計画について。個別教育計画の関係は？連携されているのか。

●支援計画は3年ごとに支援シートとして作っている。個別教育計画は1年ごと。支援シートを基に個別教育計画を作成している。

○「レイの失踪」とは？ソフトなのか。

●スマホを使っての情報リテラシーの教材。スマホの危険性について高等部で実施していく。

○避難訓練の内容を知りたい。設備の点検はどうしているのか。自分の町内では、消火栓を長期間使わなかったらひび割れや水漏れがみられた。

●年に4回予定されている。地震、シェイクアウト訓練等。11月は火災設定で行う。設備に関しては夏休みに設備を使って研修をしているので点検につながっている。防災機器の使い方についても行っている。消火栓の業者と一緒に使い方も含め、研修を行っている。

○町内会で修理したが水漏れをしていたことがあったので点検をしたら一緒に確かめるよとよい。

学校教育計画中間報告等について承認

5 <切れ目ない支援部会>

(1) 「つながる・ひろがるあさおプロジェクト」の5つの視点について、1学期中に進めてきた取り組みを総括教諭より説明。

(2) 意見交換 (○委員、●学校関係者)

○肢体不自由教育部門の進路指導についてどうなっているのか教えてほしい。

●昨年度からPTAからも卒後の過ごし等の情報が少ないとのご意見をうけている。今年度、移行支援係とも相談し、説明会・学習会の設定を検討した。小学部・中学部 AB 合同で進路説明会を設定し、情報共有する予定でいる。谷様にも相談している。

○「しんゆり」のお祭りで麻生支援の生徒が演奏を2回していた。素晴らしい演奏をしていた。土曜日に地域の施設に派遣することになったいきさつは。

●今年が初めて。依頼があったので初めて行った。なかなか良かったという声をいただいた。他にも幼稚園、学校内でも行っている。たくさんの方に来ていただいた。天気も心配だったが感謝している。

○丁寧な関わりスタンダードのブラッシュアップの具体的な手立ては。

●総括教諭中心に事例を集め、実際に事例と文章があっているかを検証し

ている。教育活動の中で実態に即した教育活動等に即してものにしていく。

- 事例を基にしているのが良い。それが根底。この学校で経験された具体的な事例となれば、先生方に承認されやすい。このような事例は否定的になりがちなので好事例をだし、プラスのところを表現してほしい。それが子どもたちの主体性につながってくる。
- 「繰り返し」という言葉が出てくるが、飽きるのは教員の方で子どもたちは飽きていない。飽きていない理由を考えてほしい。「繰り返し」というのがキーワードだと思っている。

6 <学校設置部会> (○委員、●学校関係者)

①スクールバス地域救援部会

- マイクロ介助員1名増。スクールバスのGPSの導入。来年度大型バスが1台増便運行。通学支援通学保障。トラブル時の1次的なパートナーシップ協定を元石川高校と結んでいる。田園調布学園大学とは協議継続中。
- スクールバスは麻生区だけでなく青葉区、多摩区等いろいろなところを走っている。パートナーシップを広げていってはどうか。
- ステッカーを作り、子ども文化センター等をお願いするとともによりステッカーをより人が集まる場所に広げていきたい。

②丁寧なかかわりのスタンダード部会

- 話し合いからスタンダードへ。夏季休業中の研修にて、学部を超えた小グループでの話し合いが行われた。
- 学部を超えた話し合い、色々な立場の人たちが話し合うことで、今までと違う視点、新しい視点が見えてくる。
- 新しい視点で考えたり、リフレッシュが学校内で行われたりすることが大切。いろいろな立場や考え方を知り、研究のチームも新たな形が見えてくるのではないか。PTA等既存の組織を使うことがあってもよい。

7 事務連絡

第3回学校運営協議会は令和8年2月17日(火)に実施予定。メール等でご案内します。

8 会長の言葉

丁寧な関わりスタンダード部会で話されていた会議の人数は大事で8名くらいが適。部会に分かれたほうが意見交換が活発であった。今回も学ぶことができた。学校運営協議会は麻生支援学校を応援するのが使命。学校経営を応援することが使命。どう応援できるのか、第3回に向けて情報を集めていきたい。

9 校長の言葉

熱心な討議有をありがとうございました。チラシをご覧ください。11月8日に「全国コミュニティ・スクール研究大会 in 仙台」にて、麻生支援学校における実践事例の報告をする機会をいただいた。WEB視聴もできるので、ぜひ視聴していただけるとありがたい。今回も有用な意見をありがとうございました。意見を受け止めながら工夫していきたい。今後も力添えいただき、より良い学校づくりを進めていきたい。

10 閉会

以上